

奥能登原木しいたけ 「のとてまい」・「のと115」だより

<発行者> 奥能登原木しいたけ活性化協議会、石川県農林総合研究センター

収穫

原木しいたけの栽培管理について

- 3月上旬の平均気温はかなり高くなり、きのこが乾燥しやすくなっています。春子の発生、成長のために散水を行いましょう。
- 気温の上昇とともに虫などの被害が増えるおそれがあるので、出荷時や乾燥前は注意しましょう。



乾燥した芽

植菌

(4月中旬までが適期 手引き4-5ページ)

- 植菌前の原木は、直射日光があたると表面が乾燥し、樹皮が浮くなど活着不良の原因となります。また、雨や雪にあてると水分が多くなり、これも活着不良の原因となります。すぐ植菌できない場合はブルーシートなどをかけておきましょう。

仮伏せ

(植菌後から梅雨入り前 手引き6-7ページ)

- シイタケ菌は高温や乾燥に弱いため、植菌後は直射日光が当たらないようにしますが、雨が通るように、ムシロや遮光ネットをかけておきましょう。



直射日光が当たらない林内での仮伏せ



遮光ネットによる被覆

安定した収穫のためには、シイタケ菌の活着が重要です。ときどき菌の伸び具合を確認し、伏せ込み場所の環境を整えるようにしましょう。

<直近の出荷状況>

1月、2月と少しずつ共選への出荷量が増加してきましたが、3月は露地物の出荷と春子の発生により、共選のと115の出荷量が昨年の約2倍(3月の出荷量)となっています。共選事業は3月末までですが、4月以降も発生が継続すると見込まれます。虫害などに気を付けて、市場へ出荷しましょう。

穴水町の保育園児が「のと115」の収穫を体験しました

平成31年3月13日に、穴水町の平和こども園の園児21人が穴水町内のハウスで「のと115」の収穫体験を行いました。

園児たちは1月に自分たちがハウス内に運び込んだ原木から、立派に育っているしいたけを見て、大変喜びながら1人3個のしいたけ収穫体験を行いました。収穫したものは別に、協議会からも園児たちに「のと115」をプレゼントしました。

この取り組みは同園からの要望もあり、奥能登原木しいたけ活性化協議会が企画し、3年ほど前から実施しております。

奥能登の原木しいたけのPRや食育にも繋がり、園児たちにも好評であることから、今後も継続していきます。



パック詰めの出荷について

今年度からは、原木しいたけをより多くの県民のみなさんに親しんでいただけるように、のと115（10玉・12玉サイズ）をパックに詰めて、県内のスーパーマーケット等で販売中です。

